



事業実績(10/20時点)

・組合員数//3,218名(計画比97.5% 前年比103.9%)

・累計供給高//389,877千円(前年比103.6%)

・月間一人当たり利用高//17,369円(前年比98.3%)

生活クラブ奈良公式インスタグラム



SEIKATSUCLUB_NARA

2024年11月発行 No.125

発行//生活クラブ生活協同組合 理事会 編集//広報委員会 奈良県大和郡山市田中町913 TEL:0743-58-5225

予約して計画的に食べることが、 生産を未来につないでいく

この間、世間では青果物(野菜・くだもの)や米の生産状況よって引き起こされる様々な出来事が報道されていますが、それらは気候変動を原因とした不作による品不足、価格高騰が主なものです。気候変動の大きな要因である地球温暖化には大勢のチカラで取り組むことはもちろん必要ですが、一方でこのような時だからこそ、これから先の持続可能な生産(生産者が安定して生産し続けられる)と持続可能な消費(消費者が安心して食べ続けられる)について考え、実現に向けて活動を続けていくことが重要です。

食べる約束「よやく・る」

「よやく・る」はお気に入りの消費材が、自分の選んだサイクルで自動的に届く仕組みです。組合員にとって、一回きりの注文よりもお得な予約価格で利用できますが、生産者にとってもうれしいことがたくさんあります。組合員があらかじめ予約することで、生産者は消費量の見込みを立てられるようになり、より効率的に安定的に生産を続けることができます。それにより、農薬の削減や畜産飼料や加工原料の国産化、後継者の育成など、食の未来を支えるチャレンジに力を入れられるようになります。

例えば、人気の「チキンナゲット」も予約で利用できる消費材で、原料には国産鶏種「はりま」(生活クラブでは「丹精國鶏」という独自のブランド名で取り組んでいます)を使用しています。日本で食べられている鶏肉の多くは、外国から輸入したひなを国内で肉用鶏として育てたもの。輸



「よやく・る」は食べ方のしくみだけではなく、持続可能な生産と消費を実現していくという組合員の意思表示であり、組合員と生産者、お互いの結びつきをより強めます。

(専務理事 城本 豊)

予約はお互いの信頼関係

「よやく・る」は、本当に良いものを作ってくれる生産者との信頼で成り立つ予約の仕組み。真面目な生産者を応援する意義のあるシステムです。

農産物だけでなく、牛乳、肉、調味料など。予約品目は多数あります。

生活クラブでは、国産鶏種の鶏肉を安定的に生産できるよう、提携生産者とともに丹精國鶏の年間二百萬羽の消費をめざしています。

この目標を達成するためには、精肉だけでなく、モモ肉やムネ肉、ささみなどの部位を使用した惣菜「チキンナゲット」の利用も欠かせません。

生活クラブの生産者は添加物を削いで、より良いものを組合員と作っていく姿勢で、いろんなものを提供してくれています。急な変更に対応できないからと敬遠せず、この機会にひとりで「よやく・る」に登録して生産者と食べる約束をしてみませんか。

(理事 牧村恵子)

パレスチナに生きる人びとの声を聞く

10月23日 パレスチナ農業開発センター（以下UAWC）のフアッド・アブサイフ氏、マウントオブグリーン オリーブス（以下MGO）のサイド・ジャンン氏、(株)オルター・トレード・ジャパン（以下ATJ）の黒岩竜太氏をお迎えし、ガザ地区の現状とオリーブオイルについて話を聞きました。

想像を絶するジェノサイド

イスラエル軍によるガザ地区への侵攻は一般の人々から水や食料、大事なオリーブの木、住む家や命までも奪うジェノサイド（集団殺りく）です。

パレスチナの人々にとってのオリーブの木は単なる農作物ではないのです。困難に耐えることの象徴とされ、樹齢何百年のオリーブの木を遺産として引き継ぐことが多いのです。

オリーブの実の収穫は毎年10月ごろから始まります。2023年10月からヨルダン川西岸地区への軍事行動と立ち入り規制が激しくなり、一万本以上のオリーブの木が被害を受けています。
オリーブオイルの生産

オリーブの実は、収穫量が多い年と少ない年があります。収穫量が多いと値が下がります。MGOは質の高いパレスチナのオリーブオイルや伝統製品をフェアトレードや民衆交易として、直接流通させるために2005年に設立されました。

パレスチナの人々が命がけで手作業で収穫し、小枝な



左から黒岩竜太氏、フアッド・アブサイフ氏、サイド・ジャンン氏

どを取り除いたオリーブの実は、MGOが建てた充電工場に集められ、種ごとつぶし、熱や化学薬品を使わず、低温圧搾してオイルが絞られます。充電工場では地元住民を雇用し、品質管理も行っています。

実の収穫時期により、オリーブオイルも変化します。サイド氏が2週間前に収穫したばかりのオリーブオイルを試食させていただきましたが、色は緑で少し青臭い香りがしました。

11月にかけてだんだん熟度が増し、色や風味が変わっていくそうです。



参加者 35名 男性や中学生も家族で参加

私たちにできること

宗教や政治が絡んだ難しい問題で、マスコミの報道も十分とは言えないのが現状ですが、多くの市民が犠牲になっているこの状況は80年前の日本と同じです。一刻も早く止めなければいけないと痛感しました。

パレスチナの人々のことを気に留めること。私たちが自分の意志で、イスラエル製品を買わないこと、パレスチナの人々が命がけで生産しているオリーブオイルを利用することも、行動の一つです。

（広報準備委員会 木田洋子）



生活クラブ生協(奈良)理事会は、日本のNGO 6団体がガザ地区での停戦を求めて発出した共同声明「停戦を、今すぐに。」に対して、10月29日開催の理事会において賛同することを決定し、賛同署名を行いました。

NGO 6団体：

- 公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン、
- 特定非営利活動法人日本国際ボランティアセンター、
- 特定非営利活動法人パルシック
- 特定非営利活動法人パレスチナ子どものキャンペーン
- 特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン
- ピースポート

事務局：特定非営利活動法人 日本国際ボランティアセンター

『居場所よりみち』

参加者もスタッフも楽しんで

生活クラブ大阪・香里ブロック 居場所づくり部会が運営されている「居場所よりみち」を訪問しました。「居場所よりみち」は、高齢者も子育て世代も子ども達も気軽に集える『場』を先行して運営されています。福祉・たすけあい委員会の訪問に同行しました。(9月30日)

高齢者も子どもも

初めは、場所を転々として「子育て広場」を開催されました。そのうちに常設の場所が欲しいとの声が上がリ、場所探しをされたそうです。

今の場所は、枚方市香里ヶ丘にあるUR賃貸住宅の一角で、店舗付き住宅を改装されました。散髪屋、美容室、地域包括支援センター、整骨院、児童発達支援放課後等デイサービスとして、「居場所よりみち」が並んでいます。高齢者も多いですが、子育て世代の戸建て住宅も増えてきている地域です。開所前には、地域の自治会や老人会などへの挨拶回りをし、地域住民のニーズが見えたとのこと。



生活クラブ大阪の『居場所よりみち』は、UR住宅の一角にあります



2階は畳の部屋。寝ころんで絵本が読めます

参加者のやりたいことを

などでやりくりされています。続けられる秘訣は「楽しいんです」と即答されました。

月曜と水曜は毎週、金曜と土曜は月に1回程度の開所です。盛りだくさんのプログラムがあり、毎回、5〜7人くらいの参加者があるとのこと。「こんなことをしてみたい」との参加者の声ですぐに企画に変わり、

参加者自身が講師になり、また次の企画へとつながっていきます。

プログラムの一つに「大人の修学旅行」というのがありますが、添乗員経験者の利用者が、パソコンで写真などを映しながら解説し、参加者は椅子に座ったまま世界中を旅行した気分になれるそうです。

(広報準備委員会 木田洋子)

簡単お料理レシピ

《フライパン1つでエビのチリソース》

<材料 2人分>

エビ(エコシュリンプむき身) 200g~250g
玉ねぎ 1/2個
ピーマン 2個
(あれば赤いパプリカを彩りに少々)
片栗粉 エビにまぶす量
豆板醤 小さじ1~お好みで



エコシュリンプむき身



A ネギの白い部分 1/2本
土しょうが 20g
にんにく 12g
(全てみじん切りにする)

B 合わせ酢
トマトケチャップ 大さじ4
塩 小さじ1/3
砂糖 大さじ1+1/2
とりがらだし顆粒 小さじ1
水 1/2カップ

<作り方>

- ①エビは水分を拭き取り、片栗粉をまぶして揚げる。
- ②エビを揚げたフライパンに油大さじ1程度残し、豆板醤とAを炒め、玉ねぎ、ピーマンを炒める。合わせ酢Bを加え、火が通ればエビを加えて仕上げる。

広報紙の役目 Yummy³通信がめざすところ

その1 広報紙から見た「生活クラブ(奈良)」のあゆみ

「ウィル・コープなら」の設立当初からの広報紙を保存していますので、読み返しています。

2003年4月より生協準備会として業務が始まりました。生協設立のために必要な署名が2,280筆集まり、2006年11月20日にいよいよ設立総会が開かれました。出席者は125名。その年の11月25日には伊賀有機感謝祭に奈良から22家族70名が参加しています。

2007年9月からは、生活クラブの消費材が一部導入され、2008年6月の総代会で、生活クラブの仲間として名称も「生活クラブ生活協同組合」に変更しました。

添加物や消費材の話

広報紙の名称は、最初は「ウィル・コープならだより」でした。名称が公募され、2007年5月から「Yummy³通信」に変わりました。

この頃は、「添加物」や「環境問題」に関心がある組合員が多く、広報紙でも毎回、添加物についての説明や消費材についての質問に理事会が答えています。また環境委員が交代で「ちょいエコひとりごと」と題してコラムを書いています。

This block contains several pages of newsletters. On the left, there's a page titled 'ウィル・コープならだより' (Will-Coop Newsletter) No. 1, dated 11月20日 (Nov 20, 2003). It discusses the establishment of the cooperative and mentions 125 attendees at a general meeting. In the center, there's a page titled '伊賀有機感謝祭' (Iga Organic Thank You Festival) from 11月25日 (Nov 25, 2006), featuring a photo of a person and text about the event. On the right, there's a page titled '地域の期待を担い' (Carrying the expectations of the region) from 12月15日 (Dec 15, 2006), with a photo of a building. At the bottom, there's a page titled 'Yummy³通信' (Yummy 3 Newsletter) No. 46, dated 2007年5月 (May 2007), which includes a 'シンポジウム開催' (Symposium) notice and a '編集後記' (Editorial Note).

This block shows three issues of the 'Yummy 3' newsletter. The top one is No. 46 (May 2007) with a notice about a symposium. The middle one is No. 47 (Nov 2006) with an article titled '地域で活動する生協として 何かできる事はないのか' (As a cooperative active in the community, is there anything we can do?). The bottom one is No. 48 (Jan 2008) with an article titled '食べ物を共同購入するだけの生協でいいのですか?' (Is it okay to have a cooperative that only buys food together?).

地域で活動する生協として
2010年12月に長野県佐久総合病院の色平哲郎医師と財団法人たんぼぼの家の播磨靖夫理事長をゲストに迎えてシンポジウムを開きました。

色平氏からは、一昔前の「お互い様」の生活にそのまま戻すのではなく、いいところ取りをしたらいい。自分が持って生まれた能力だけで自分のことだけを考えるのではなく、みんなの力で、少しでも前へ進もうと考えましょう。

播磨氏からは、男性中心の縦社会。それに対して横に緩やかにつながっているのは女性。生活者の視点で食の安全や子育てなどの身近な話題に取り組みことから始めましょう。とのメッセージを頂きました。

(広報準備委員会 木田洋子)

編集後記
広報紙を作るには、年間計画を立て、年間のメイン記事のテーマを決めます。総代会でその年のテーマが決まりますから。文字数を指定して原稿を依頼します。

集まった原稿を委員会で検討し、分かりやすく書き直してもらうこともあります。というのは理想。

現実には、なかなか原稿が集まらず、理事会に提出するため紙面に収めるのはいつも夜中です。

(木田洋子)

今後の予定

- 11/20(水)パラマウント 足と靴の相談・販売会
- 11/22(金)軽トラックを使った配送の仕事見学会&説明会
- 2月予定 手作りみそ講習会 後日配布の案内チラシでご確認ください